



中国農業農村部は昨年12月に「農業の全面的なグリーン転換を加速し、農村の生態振興を促進するための指導意見」（以下、指導意見）を発表し、2030年までの政策目標を示した。第15次5カ年計画（26～30年）に該



中国 グリーン転換推進

地球環境戦略研究機関主任研究員 金振氏

中国のグリーン農業戦略目標

カッコ内は達成期限

項目	目標値	削減効果
高効率節水かんがい面積の新規拡大	約4000万ha (2025～30年)	水資源の持続可能な利用と温室効果ガスの排出削減
三大主要穀物（米、小麦、トウモロコシ）の化学肥料利用率	43%以上 (30年)	化学肥料由来の亜酸化窒素排出削減
主要農作物の※グリーン防除カバー率	60%以上 (30年)	農薬由来の揮発性有機化合物の排出削減
三大主要穀物の総合防除（IPM）カバー率	50%以上 (30年)	害虫抑制による農薬使用量の削減、土壌や水質汚染の抑制

※化学農薬の使用を最小限に抑え、生物的・物理的防除などを組み合わせた防除手法

（出所：中国農業部）

食料安保強化の一環

中国は、米中貿易摩擦の中で農業戦略の転換を図り、食料安全保障とグリーン農業の推進に注力していた。25年3月、米国が中国製品に追加関税を課したことに対し、中国は大豆、豚肉、牛肉、海産物、綿花、鶏肉、トウモロコシなどを対象とする政策目標は、26年以降に発表するのが慣例である。農業強国を目指す指導部の強い姿勢とその背景にある危機意識が垣間見える。

一方、中国は農産物の輸入先多様化を進め、特に大豆に関しては、ブラジルやアルゼンチンからの大豆輸入を増加させると同時に、ロシア極東地域での農地開発にも取り組む、食料自給率の向上を図っていた。25年3月に開催された全国人民代表大会（全人代）と中国人民政治協商会の「两会」では、「粮食安全」（食料安全保障）とグリーン農業が主要な議題となり、政府は、農業の全面的なグリーン転換を加速して、農村

の生態振興を促進するための姿勢を強調した。政府の指導意見では、30年までに、約4000万haの高効率節水かんがい面積の新規拡大目標や主要農作物の化学肥料利用率を43%以上にする目標、主要農作物の緑色防除（環境に優しい害虫防除）カバー率を60%以上に拡大する目標などを掲げている。中国は貿易摩擦を契機に、食料安全保障の枠組みを強化する一環として、水資源の持続可能な利用や温室効果ガスの削減に取り組んでいる姿勢が鮮明になっている。